

会員企業ご訪問 vol.4 2 株式会社ユーシン精機(京都市・賛助会員)

今回は、京都市伏見区に本社がある株式会社ユーシン精機(賛助会員)を訪問し、専務取締役 澤田 主二郎 様を訪ねました。



澤田 主二郎 専務

会社の概要等について

1971年に京都市東山区に創業しました。社名のユーシンは『有信(信用ある会社にしたい)・有心(心のこもった機械を提供する)』という意味からつけました。もともとはアルミダイキャストの供給機や、その他もろもろの自動機を製造・販売しておりました。しかし、やはり専門メーカーには、いろいろな面で太刀打ちできない局面に達し、当時これから将来性のあるプラスチック射出成形品取り出し工程のロボット化、後工程の自動化の専門メーカーとして取り組んでいこうという方針が決まり、現在に至ります。

当初はプラスチックの射出成形工場が多い、大阪の職業別電話帳で片っ端から調べ、飛び込みで営業をかけ、モールドと共同で試作機をまさに手作りで仕上げていきました。業界初でサーボモーターに取り組んだのも、専門メーカーならではの顧客第一主義の表われと思っております。

また、当社も海外での売上の割合が増加しているのは事実ですが、国内モールドが海外からの廉価成形品に打ち克つ策として、

『成形工場の今が見える』と題し、成形工場の生産管理・監視システムの構築・販売に取り組んでおります。また、コントローラをインターネット時代にあわせて情報端末として一新し、モールドの立場に立った商品開発を常に念頭に置き、研究開発に取り組んでおります。



最新サーボ取出口ロボット RA/RA シリーズ

ロボット(取り出し機)について

1978年に発売された第1号『スイング式取出口ロボット』に始まった我が社のロボット開発ですが、ユーザーのニーズやシーズを的確にとらえ、また市場でのフィールド調査結果をフィードバックしながら開発を進めています。技術立社を目指し、次々と開発される製品の中には、世界最速の取出しサイクル記録を樹立した光ディスク取出口ロボットも生れております。

『人を非人間的な作業から開放し、人にしかできない創造的な仕事に就かせたい』というロボット技術の開発思想をもとに、誰もが想像できなかったシステムを開発する。高度なテクノロジーを駆使しながら、誰もが簡単に使いこなせるロボットをつくり上げる。この理念のもとに、我が社ではプラスチック成形工場の生産性向上において重要な役割を担う『取出口ロボット』の研究開発に一貫して取り組み『サーボモーター』の導入や『超高速ロボットの開発』など数々の新技術につなげることができました。

協会への要望

協会への要望といえば、当社は賛助会員という立場での意見となりますが、当社につきましては新製品の会員への発信等、情報公開の場としての協会の存在に魅力を感じています。

情報はスピードが命ですから、生きた情報については当社の「ユーシンメールマガジン」等を利用し、双方向で情報の受発信が出来ればよいかと思えます。



取材：事務局 山本・加納